

平成 23 年 10 月 5 日

各位

石油資源開発株式会社

北海道における冬期天然ガス安定供給対策について

石油資源開発株式会社（以下「当社」）は、2011 年度以降の北海道における天然ガスの冬期ピーク需要への安定供給対策として、勇払油ガス田からの天然ガス供給に加えて外部から調達する LNG も併用することとし、2009 年 11 月に内航船 LNG 受入基地（以下「勇払 LNG 受入基地」）建設を決定し、苫小牧港西港区に位置する北海道鉱業所（北海道苫小牧市）に本年 11 月初頭の運転開始を目指して建設中です。

北海道においては、2012 年 12 月に北海道ガス株式会社の石狩 LNG 基地が運転開始の予定であり、これにより道内における天然ガスの長期安定供給体制が整うものと考えておりますが、当社と致しましてはそれまでの間、特に今年度冬季（2011 年 11 月から 2012 年 3 月までの間）のピーク需要および需要変動への安定供給に万全を期すため、下記による天然ガス安定供給対策を実施することとしたのでお知らせします。

記.

1. 天然ガス安定供給対策の概要

- (1) 外航 LNG 船 1 隻（タンク容積：12.5 万 m³）を傭船し国外から LNG を調達したうえで、外航 LNG 船から勇払 LNG 基地への効率的な LNG 移送を行うため、内航 LNG 船によるシャトル輸送を行いません。
- (2) 具体的には、苫小牧港東港区の大型タンカー用棧橋（北海道石油共同備蓄株式会社所有）に外航 LNG 船を冬季間係留し、内航 LNG 船を並列係留させ外航船から LNG を内航船へ積替えて、勇払 LNG 受入基地へ移送します。（添付資料参照）

2. LNG 受入の安全対策について

船舶間での LNG 積替えという本邦初の運用を行うことから、港則法、船舶安全法ほか関係法令に基づく許認可申請に先立って、監督官庁と協議のうえ、当社はその安全対策について航行安全ならびに海上防災の観点からの検証、確認を行なうことと致しました。

具体的には、関係官庁、専門的知見を有する学識経験者、および地元自治体からなる以下の二つの委員会を設けて、昨年 12 月以降定期的に検討を重ねてきましたが、今年 9 月末に航行安全ならびに海上防災対策がとりまとめられ委員会での了承を得ることとなりました。

- ① 「苫小牧港東港区 LNG タンカー STS 液移送計画に係る『航行安全対策調査委員会』」（事務局：（社）日本海難防止協会）
- ② 「苫小牧港東港区 LNG タンカー STS 液移送計画に係る『海上防災対策調査研究委員会』」（事務局：（独）海上災害防止センター）

3. 地元説明

また、当社は地元苫小牧港湾関係者のご理解、ご協力を得るため、今冬の天然ガス安定供給対策の概要、ならびにその実施にあたっての安全対策について、本日開催された苫小牧海上交通安全協議会において、ご説明しております。

4. 今後の予定

港則法、船舶安全法ほか関係法令に基づく申請を関係官庁に提出し 10 月末を目途に許認可を取得する予定です。

なお、許認可取得後、現地での LNG 積替えのトライアル作業を 11 月中に実施し、事前に安全対策の確認を行うとともに万全な準備を整えたいうで、12 月より本格的な運用を開始することといたします。

【勇払 LNG 受入基地の概要】

建設場所：苫小牧市字沼ノ端 134（当社北海道鉱業所敷地内）

主な設備：内航船受入ローディングアーム、LNG タンク（2,700kl）、LNG 気化器

工期：2010 年 6 月着工、2011 年 10 月末竣工予定

【LNG の積替えを行う LNG 船の概要】

	外航船	内航船
船名	LNG Taurus	あけぼの丸
積載容量	125,000m ³	3,500m ³
全長	285.3m	99.5m
総トン数	95,000t	4,800t
備考	平成 23 年 11 月から平成 24 年 3 月までの間、北海道石油共同備蓄(株)の栈橋に係留	北海道鉱業所内の勇払 LNG 受入基地と北海道石油共同備蓄(株)の栈橋に係留中の外航船との間を適宜往復

以上

(添付資料)

【外航 LNG 船から勇払 LNG 受入基地への LNG 移送】



北海道石油共同備蓄(株)棧橋及び石油資源開発 2 号岸壁の位置(苫小牧港全景)

【LNG 船の並列係留のイメージ図】

